

「ビエンナーレの現在」1週目プレレジュメ

今回私たちは「ビエンナーレの現在」の3章と4章を扱います。

3章と4章は、横浜トリエンナーレ(以下横トリ)2005が焦点となっています。

文献の中で繰り返し指摘されているように、横トリ2005は従来の日本の国際展と比較して極めて特異なものだったといえます。

その特異とされる2005以降、横浜という都市になんらかの変化が起こったのか、横トリ2008との比較を行うことで考えていきたいと思っています。

また、今後日本の国際展はどのように変わっていくのか、もしくは変わっていくべきなのか。

数多くの国際展が催されている中で、横浜トリエンナーレの文化的・社会的意義とはいったいなんなのか。

以上の点について今回の発表を通して言及していきたいと考えています。

そこで発表にあたって皆さんには以下の宿題を課させていただきます。

・文献の熟読

言わずもがなですが、文献は徹底的に読み込んでください。

1回だけでなく、2回3回と繰り返し読み、理解を深め、文献に対する自分の考えをまとめてください。

ノートを取りながら読むことをおすすめします。

・横トリ08への参加

もはや耳にタコが出来ているでしょうが、なるべく観にいってください。

ゼミ生のほとんどが国際展を観に行った経験が無いと思います。

実体験に基づく意見が多ければ、議論に説得力を持たせることができるでしょう。

・国際展のあるべき姿とは？

みなさんが文献を読んだ上で考える理想の国際展はどのようなものですか？

また、国際展の意義とはいったいなんでしょうか？

文献を読んだ上で、自分の言葉で考えてってください。

事前提出の必要はありませんが、各自責任と自覚を持ってしっかり考えてってください。

それでは水曜日にお会いしましょう。

1週目発表班 林・菅井・笠原・高木